

作成年月日	令和3年3月8日
作成部局	災害対策支援本部事務局 企画県民部防災企画局

東日本大震災から10年を迎えて

1. 東日本大震災から10年を迎えて（知事コメント）
（事務局（復興支援課））

資料

（参考1）東日本大震災から10年（3月11日）における兵庫県の対応

（参考2）東日本大震災に係る支援（10年間の支援状況）

（参考3）県内避難者の登録状況及び職員等派遣状況（兵庫県・関西広域連合構成団体）
（令和3年3月1日現在）

東日本大震災から10年を迎えて

まもなく、東日本大震災から10年の節目を迎えます。

震災で犠牲となられた方々に哀悼の誠を捧げるとともに、数々の困難を乗り越えてこられた被災者をはじめ関係の皆様にご心から敬意を表します。

先月13日、福島県沖で東日本大震災の余震とみられる最大震度6強の地震が発生し、あの巨大地震の影響がいまなお続いていることを改めて実感させられました。震災を「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」。私たちは、いま一度この原点に立ち返って、次なる災害に備えなければなりません。

さらに、コロナ禍のもと、感染症に対応した避難所の運営など新たな課題も生じています。災害をなくすことはできません。だからこそ、過去の災害に学び、できる限りの対策に努め、被害を最小限にする努力を積み重ねていくことが必要です。

私たちはこの10年間、現地の情報やニーズを把握しながら、被災地の支援に全力で取り組んできました。救援物資の提供、健康相談、ボランティア活動やコミュニティ形成の促進、県内避難者への支援など、復旧・復興のステージに応じた切れ目のない支援を続けてきました。

あの阪神・淡路大震災から、県民一丸となって創造的復興を成し遂げてきた私たちの経験と教訓は、これからの東日本大震災の復興にも活かすことができるはずです。

阪神・淡路大震災を経験した兵庫の責務として、これからも被災地の復興を支援し、一人ひとりが防災について考え、行動する「災害文化」のさらなる定着に向け、ともに取り組んでまいります。

令和3年3月8日

兵庫県知事 井戸 敏三

東日本大震災から 10 年（3 月 11 日）における兵庫県の対応

3 月 11 日に東日本大震災の発生から 10 年を迎えるにあたり、震災で犠牲となられた方々に哀悼の意を表するため、下記のとおり対応します。

記

1 黙とうの実施

東日本大震災の発生時刻である午後 2 時 46 分にあわせて黙とうの呼びかけ

2 弔旗（半旗）の掲揚

県庁舎及び県立施設においての弔旗（半旗）の掲揚

3 市町・団体等への要請

県内市町及び関係団体等に対して黙とうの実施及び弔旗（半旗）掲揚の呼びかけ

【問い合わせ先】企画県民部防災企画局復興支援課生活支援班 TEL: 078-362-4336

東日本大震災に係る支援（10年間の支援状況）

1 支援物資等の提供

阪神・淡路大震災の被災地としての経験等から非常食、毛布、仮設トイレに加え、必要性が高いと思われるブルーシート、ベビー用品等、きめ細かい視点から支援物資を提供。また、現地要望に基づき、広く県民に防寒着の寄付を依頼、現地へ善意の提供を実施。

(1) 緊急支援物資

【 H23.3.13～H23.11.10 】

項目	数量	項目	数量	備考
化米	50,000 食	飲料水	60,784 本	500ml / 本
毛布	10,000 枚	飲料水用ポリタワ	770 個	10 ㍓・20 ㍓ / 個
ブルーシート	2,000 枚	飲料水用ポリ袋	3,000 枚	6 ㍓ / 枚
仮設トイレ	200 基	ほ乳瓶	500 本	含、消毒用品
防寒着	約 67,000 着	紙おむつ	1000 個	約 54,000 枚
ベビーバス	100 個	離乳食	14,700 食	
パン	18,830 個	冷凍おにぎり	9,600 個	
インスタみそ汁	23,600 個	レトルトスープ	100 袋	500 人分
お皿	2,513 枚	お椀	2,653 個	
中古パソコン	120 台	介護食	1,234 食	主菜等

その他現地からの要望に基づき弾力的に実施

（例：気仙沼市へのシャワールームの提供、多賀城市への防寒着の提供）

(2) 見舞金・義援金

区分	実績
1 見舞金	(H23.3.14) [岩手県] 100 万円 [宮城県] 100 万円 [福島県] 100 万円
2 義援金	募集 (H23.3.16～H23.9.30) 東日本大震災兵庫県義援金募集委員会において義援金を募集 [募金額] 2,394,684,671 円
	贈呈 (H23.11.22) 義援金贈呈に併せて、地域コミュニティ再生・形成を提案 [岩手県] 469,363,405 円 [宮城県] 1,564,413,849 円 [福島県] 360,907,417 円

2 応援職員等の派遣

被災地の早期の復旧・復興に資するため、現地に職員を派遣。

区 分		実 績
1 短期派遣	宮城県北部沿岸市町 支援本部への派遣	(H23.3.22～H23.10.2.8) [第1陣～第32陣] 14,346人・日
	被災自治体への派遣	(H23.3.22～H24.3.30) [県職員] 8,238人・日 [市町職員] 34,025人・日 [県警職員] 36,079人・日 [緊急消防援助隊兵庫県隊] 353人・日 計 78,695人・日
2 中長期派遣		(H24～R2) [県職員] 586人 [市町職員] 420人 [県警職員] 89人 各年度4月1日時点の派遣職員の合計
3 新任職員・新任教職員等の派遣 (研修)		[新任職員] (H24～) 1,055人 [新任教職員] (H25～) 656人

3 被災地への支援

阪神・淡路大震災の経験と教訓を活かし、被災地の復旧・復興のステージに応じたきめ細かい支援を実施。

(1) コミュニティの活性化・まちづくり

事業名等	事業内容	実 績
ひょうごまちづくり 専門家派遣事業	住民主体の復興まちづくりを支援するため、阪神・淡路大震災における復興まちづくりを経験したコンサルタント等の専門家を被災地に派遣	[コンサルチーム](H23～H26) 34チーム(のべ600人) [アドバイザー](H23～H27) 151回(のべ275人)
復興サポート事業	阪神・淡路大震災等で活動実績のある団体等が東日本大震災の被災地で実施する多様な実践活動を支援	【助成件数】(H24～) 248件
地域型仮設住宅 アドバイザー派遣事業	地域型仮設住宅運営のノウハウ等を提供するため、阪神・淡路大震災の際に運営に携わった社会福祉法人の経験者をアドバイザーとして派遣	【派遣人数】(H23.12～H24.2) 5人

(2) 健康・こころのケアの充実

事業名等	事業内容	実績
園芸療法等を活用した被災者支援	花と緑を育むことを通して被災者の心の癒しを図るため、被災地へ園芸療法士を派遣	【派遣回数】(H23～) 50回、90人
被災地への音楽療法士の派遣事業	被災した子どもとその家族のこころのケアを図るため、被災地へ音楽療法士を派遣	【派遣回数】(H23～H29) 20回、61人
県立神出学園東北ふれあい交流事業	不登校等を経験している神出学園生が、被災地を訪問し、被災者との交流を通してこころのケアを実施	【派遣回数】(H26～R元) 6回
県立こどもの館被災地子育て支援事業	昔遊び・手作り人形劇や絵本の読み聞かせ等の実施により、多世代ふれあい交流や被災児童のこころのケアを支援	【派遣回数】(H24～H25) 2回、39人
心のケアに係る教員研修実施事業	被災地の長期的な児童・生徒のこころのケア対策のため、スクールカウンセラー及び EARTH 員等を派遣し、現地の教員に対する研修会等を実施	【派遣回数】(H23～H27) 10回、185人
災害時学校支援チームみやぎ発足への支援	災害時学校支援チームみやぎ発足を支援するため、養成研修において、候補者との協議、意見交換を実施	【派遣者数】(R1) 23人
被災児童・元気アップ事業	阪神・淡路大震災等において活動実績のある NPO 等団体が行う被災児童を対象としたこころのケア活動を支援	【助成件数】(H24～H25) 34件
「まちの保健室」開設支援事業	兵庫県看護協会職員を派遣し、宮城県看護協会のボランティアによる開設・運営を支援	【派遣回数】(H24～H27) 8回

(3) ボランティア活動の促進

事業名等	事業内容	実績
被災地「絆」ボランティア活動支援事業	ボランティアグループや NPO 等が企画・運行するボランティアバス等に要する経費を助成	【派遣台数】(H23～) 400台、10,137人
	ひょうごボランタリープラザが県内の学校・ボランティア団体等と協働でボランティアバスを派遣	【助成件数】(H28～) 15件、154人
ひょうご若者被災地応援プロジェクト事業	県内大学生・高校生等若者が行う被災地の復旧・復興を応援する活動を支援	【助成件数】(H28～) 16件、167人
がんばろう東日本！アート支援助成事業	被災者のこころの復興を支援するため、県内の芸術文化団体が行う、被災地での活動や、県内での交流事業にかかる経費の一部を助成	【助成件数】(H23～R元) 77件
高等学校等による被災地支援	被災地支援を通じて得られる経験を今後の防災教育に活かすため、東日本大震災の被災地へ高校生等を派遣	【派遣校数】(H24～) 206校、3,124人

4 県内避難者への支援

被災地での大変厳しい生活環境を踏まえ、被災者を一時的に受け入れ。また避難が長期化する県内避難者を対象に早期生活再建に向けて各種支援策を実施。

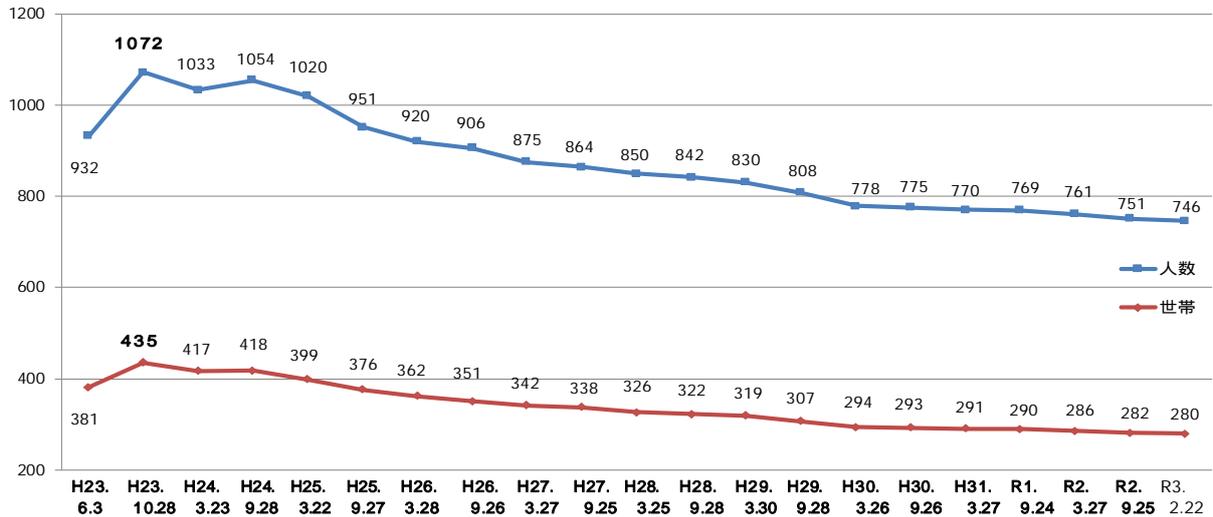
事業名等	事業内容	実績
民間賃貸住宅借上提供事業	兵庫県住宅供給公社が民間から借上管理している賃貸住宅を、県が応急仮設住宅として借上げ、県公社と連携し避難者に提供	【受入世帯数】(H23～H29) 28世帯
県営住宅入居支援事業	県営住宅を、避難者に対して提供	【受入世帯数】(H23～H28) 43世帯
被災児童保育料減免支援事業	東日本大震災に伴い、負担能力に著しい変動が生じた世帯に対し、市町が保育料減免を行った場合、減免相当額を補助	【補助実施市数】(H23～H28) 10市
被災児童生徒就学支援等事業	本県に避難している幼児の保育料等を軽減するとともに、児童生徒の就学費用を援助	【支援児童数】(H23～) 75人
音楽療法被災者支援事業	被災者のこころのケアのため、音楽療法士による参加型コンサートを開催	【実施回数】(H24～H29) 6回
県内避難者相談・交流等支援事業	県内避難者を対象に早期の生活再建に向けた各種相談・情報提供、交流の機会の促進等の活動を行うNPO・ボランティア団体等を支援	【助成件数】(H25～H27) 18件
県内避難者の就業支援【緊急雇用】	緊急雇用就業機会創出基金を活用し、本県への避難者の就労支援を実施	【雇用者数】(H23～H27) 168人
旧県立淡路高等学校一宮校での受入れ	避難所のほか、震災の影響でクラブ活動が思いどおりにできない被災地生徒の合宿や地元住民と県内避難者等の交流の場として旧一宮校を活用	【受入者数】(H23～H24) 97人

【問い合わせ先】企画県民部防災企画局復興支援課生活支援班 TEL：078-362-4336

県内避難者の登録状況及び職員等派遣状況（兵庫県・関西広域連合構成団体）
（令和3年3月1日現在）

1 兵庫県内避難者の登録状況等
280世帯 746人（2月22日現在）（増減なし）

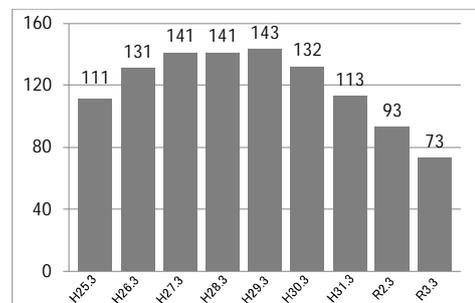
兵庫県内避難者の登録状況等の推移



2 職員等派遣状況

(1) 兵庫県分（県・市町職員）
73人（3月1日現在）（増減なし）

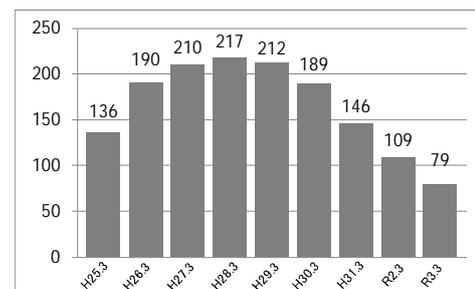
区 分	人 数
県	43
神戸市	1
その他市町	25
県警	4
計	73



【兵庫県分の推移】

(2) 関西広域連合分（構成府県・政令市職員の中長期派遣）
79人（3月1日現在）（1名減）

派 遣 先	人 数
岩手県	5
宮城県	62
福島県	12
計	79



【関西広域連合分の推移】

【問い合わせ先】 兵庫県企画県民部防災企画局復興支援課 TEL 078(362)4336
 関西広域連合広域防災局広域企画課 TEL 078(362)9818
 （兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課広域企画室）